

## 海外安全対策情報（令和元年度第3四半期）

### 1 社会・治安情勢

パラナ州公安局発表によるクリチバ市の2018年の殺人件数は317件で、件数、殺人率共に依然として高い数値で推移している。2018年クリチバ大都市圏での殺人件数は765件、10万人あたりに換算すると23.3件、世界保健機構が許容範囲としている殺人件数（10万人あたり10件）の2倍強。

### 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）クリチバ市及び大都市圏では近年、誘拐、ATM爆破強盗、携帯電話販売店や薬局店、レストラン及び住居を狙った武装強盗、運転中及び停車中を狙った車両強盗、武装集団による長距離バス及び路線バス内強盗が多発している。時間帯、場所を問わず銃器を使用した犯罪が増加しており、十分な注意が必要である。渡航情報（危険情報）については、パラナ州クリチバ大都市圏は「十分注意してください」を継続中。

（2）パラナ州西部に面する隣国との国境地帯（特にパラグアイ）からは頻繁に大麻等の麻薬類及び銃器類の密輸が行われており、軍警察による押収量は増加する一方である。近年、パラナ州は麻薬の搬入ルートのみならず麻薬消費地域となっており、麻薬絡みの犯罪も増加傾向にある。

### 3 犯罪事例（10月～12月）

- （1）10月25日（金）夜、クリチバ市カジュール地区フィリピン通りで、24歳男性が拳銃で12発撃たれ殺害された。現場はバスターミナルが近く、人通りが多い地域で、被害者は薬局の前で座っていたところ腹部に6発、背中に6発の銃弾を受け殺害された。目撃者の情報では犯人は白い車両で逃走したとのことで、警察は監視カメラの映像の解析をするとのこと。
- （2）10月26日（土）夜、クリチバ市の工業地区ヴィラベルデ地区で、軍警察官が射殺された。当時、被害者警察官は拳銃を持っていたが使用した形跡は無く、腕と首に銃弾を受け死亡していた。警察は監視カメラの映像を解析し捜査している。
- （3）10月29日（火）午後、クリチバ市セントロ地区オズワルドクルス広場で、25歳の駐車案内人が何者かに刺され殺害された。目撃者の話によると、事件前に被害者は他の駐車案内人と口論になっていたが、事件と関係あるかは不明。現在情報がほとんど無いため、警察は監視カメラの映像の解析を進め捜査する。
- （4）11月7日（木）午前、クリチバ市グアイラ地区セルジッペ通りとリオデジャネイロ通りの交差点で35歳男性が射殺された。被害者は、毎日、娘を学校へ送った後、母の家へバイクで通っていた。事件当日、被害者は待ち伏せされて

いた。警察の調べによると、犯行動機は不明であるが、犯人は少なくとも2人で、被害者に対し数発の弾丸を浴びせた。目撃者の情報によると、犯行に使われた車は明るい色で、ナンバープレートは無かったとの事で、警察は監視カメラの映像で確認し、他の目撃者も探すとのこと。

- (5) 11月8日(金)午前、クリチバ大都市圏のピエン市で、カイヤエコノミカ銀行(事務所から85km)が武装集団に襲われた。その後軍警察と銃撃戦になった。目撃者の証言によると、武装集団は少なくとも7人はおり、フードを被りサンタカタリーナ方面へ逃走した。逃走の際、軍警察の追撃を避けるため女性行員1人を人質として連れ去った。女性行員は現場から少し離れた場所で解放された。この事件で銀行員2人、客2人が負傷した。
- (6) 11月13日(水)夜、クリチバ市ポルタオン地区のベンチャーショッピングセンターで10代男性による強盗事件が発生した。犯人は逃走したが、最終的には軍警察官に取り押さえられた。事件当時、軍警察のパトロールチームは現場付近をパトロールしており、21時頃、強盗の通報を受け現場へ急行したが、到着時すでに犯人は逃走していた。警察は付近を捜索したところ、現場から500m程の場所で車両の下に隠れている犯人を発見し逮捕し、被害品の携帯電話9台を押収した。
- (7) 12月17日(火)夜、クリチバ大都市圏チジュカドスル市からサンジョゼドスピニャイス市に向かう国道で、フロリアノポリス市からサンパウロへ向かう観光バスが、武装集団に襲われた。強盗団は2台の車で現れ、突然バスに向け発砲した。強盗団はバスが止まるまで発砲し、バスに乗り込み、乗客から金品を奪い逃走した。この事件で3人が負傷した。1人は肩を撃たれ、1人は鼻骨骨折。もう1人は擦り傷であった。